

ABIC 国際社会貢献センター Information Letter

No.14 2005年11月

ABIC創立5周年記念懇親会を開催	2
ABICパンフレットのリニューアル版発行	2

海外での活動

ODA 関連 — 阪僑世界駆け歩き —	
シリア繊維産業マーケティング・アドバイザーの巻	3
ウルグアイ事情	4

国内での活動

自治体への協力	岐阜県海外ビジネス人材育成塾研修会	6
中小企業支援	コーディネーターの転勤とその一日	7
教育	第8回大学対抗ディベート大会のChairperson体験記	8
	名古屋外国語大学「国際経営持論」好評スタート	9
	関西学院大学/ABIC産学共同プロジェクト 国際理解教育事業「高校生向けアメリカ理解教育普及」 テキスト出版のためアメリカへ9名派遣	10
留学生支援	東京国際交流館「フェスティバル'05」に参加	11

事務局だより	日米社会保障協定に関する説明会を開催	5
	「高齢者雇用フェスタ2005」に出展	7
	会員入会のお願い	12

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (ABIC) <http://www.abic.or.jp>

〒105-6106 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル6階 (社)日本貿易会内
Tel : 03-3435-5973 Fax : 03-3435-5979
e-mail : mail@abic.or.jp

【関西デスク】
〒552-0021 大阪市港区築港2-8-24 pia NPO 4階 413号室
Tel & Fax : 06-4395-1188
e-mail : kansai-desk@abic.or.jp

ABIC創立5周年記念懇親会を開催

ABICは、本年4月に創立5周年を迎えたのを機に、9月12日(月)、メルパルク東京において創立5周年記念懇親会を開催いたしました。JICA畠中篤副理事長、経済産業省石田徹貿易経済協力局長をはじめ官庁、JETRO、地方自治体、大学・高校、記者、ABIC正会員・活動会員の方々などこれまで5年の間、ご支援いただいた関係者多数(220名)の参加を得て大変盛会でした。

当日は、佐々木ABIC会長の開会挨拶、^{はたけなか}畠中JICA副理事長の祝辞、吉田ABIC理事長の音頭による乾杯の後、約2時間にわたって歓談いたしました。

開会の挨拶で佐々木会長より、ABICの設立の経緯とその後の発展状況の説明、また設立以降ご支援、ご協力いただいた各方面の方々、および会員に対する謝辞が述べられました。

なお、会場で、創立5周年を機にリニューアルしたABICパンフレットとリーフレット「5年の歩み」を配布いたしました。



佐々木会長開会挨拶



畠中JICA副理事長祝辞



石田貿易経済協力局長(左)と粗JICA総務部長



ABICパンフレットのリニューアル版発行

ABICの活動紹介パンフレットをリニューアルし、9月12日に発行いたしました。このたびのパンフレットは、ABICの創立5周年を機に作成したもので、これまでの5年間の実績を分かりやすく、グラフ等でビジュアルにまとめたリーフレット「5年の歩み」を別紙として巻末に挿入いたしました。



— 阪僑世界駆け歩き —
シリア繊維産業マーケティング・アドバイザーの巻

JICAシニア海外ボランティア
シリア地場産業育成

おおにし さだゆき
大西 定行 (元 伊藤忠商事)

私の専門は繊維です。商社退職後、JICA SV (Senior Volunteer) に挑戦し、ヨルダンに続き、2003年から3年間、シリア工業省で繊維産業のマーケティング・アドバイザーを拝命し、来年3月に帰国します。



小生の役割は、同工業省に設けられた繊維産業近代化プロジェクト・チームに属し、政策提案および公・民両セクターの企業訪問コンサルタンシーを公・民両分野各1名のCP (カウンターパート) と共に行い、OJTを通じ、知識・ノウハウを彼等に伝授することです。

シリア繊維産業は、首都のダマスカが高級ジャカード織物の代名詞になっているほど、歴史上の繊維先進国でした。しかし、1963年、社会主義政党バース党政権樹立後、川上・川中の主要繊維企業27社が国有化され、官僚による旧ソ連式安物大量生産方式で世界のファッション市場から乖離、在庫の山に囲まれて赤字を累積中です。

ただし、シリア社会主義のユニークなところは、この40年間にも中小民間企業の存続を許し、これが今や、



JICA Syria Office前にて (筆者)

川中・川下および国内では生産していない合織の輸入加工など、非国有化分野で繊維産業近代化の原動力になっていることです。

シリアの主要製造工業は、食品、繊維、化学品、酪農製品、世界第9位の綿花、日産50万バレルの原油で、それぞれの輸出市場は、歴史的・地理的にもEUと近隣アラブ諸国です。

繊維産業は、国産綿花25~30万トンに加え、輸入合織10万トンが毎年紡績・織布・縫製に投入され、貴重な外貨獲得とともに雇用吸収面でも貢献しており、石油資源が後10年程度で枯渇するとも言われるだけに、まず繊維産業を確立し、次代の産業につなぎたいというのが工業省の悲願でもあり、国連、EU、JICAの支援方針でもあります。

シリア繊維業界からは、国内では生産していない合織の加工技術、特に染色仕上、廃水処理、縫製、デザイン等の専門家の派遣を要請されており、経験豊富な商社マンOB各位のご出馬が期待されています。

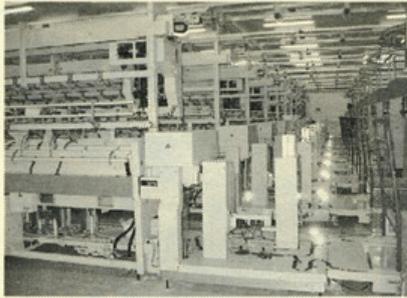
当地での生活は、治安は周辺諸国に比べても良好です。農産物、酪農製品ともに豊富で安価、一方、輸入品は周辺諸国に比較し、品薄でやや高価です。ただイ



工業省アジジ次官 (中央)、
カウンターパートのナディアさん (右) と



左からアラブ繊維連盟シャラバチ会長
(アレppo工業会議所副会頭)、カウン
ターパートのナディアさん



アレppo民間企業新設紡績機械

スラム教の生活に対する干渉度は低く、キリスト教徒もいるため、酒類もブドウ酒、ビール、アラク、イスラム禁制の豚肉・ハムも入手可能です。

日本に対するイメージは最高で、日本でのシリアに対する無関心が信じられないほどです。日本ブランドが街に溢れ、英字新聞Syria Timesは連日、日本政府からの援助やJICAの活動を称える記事を伝え、衆議院の選挙関連記事も今回はよく報じられました。

繊維関連業でもトヨタ、ムラタ、津田駒、島精機の紡・織・編機、ジューキ・ブラザーの縫製ミシン、YKKファスナーなどいたる所でお目にかかりますが、各企業とも国内に事務所がないため、EU企業に比べ、技術指導・部品発注の面で不便との意見をよく聞かれます。

首都のダマスカスや北部の主要都市アレppoは7,000年も前から人々が住み続ける世界最古の都市ですし、諸文明のクロスロードに位置するこの地域は歴史遺産の宝庫で中東に平和が戻れば観光大国になるでしょう。

ただ現在、この国で活躍する日本人は、大使館、JICA、国連軍に参加の自衛隊員が主で、民間企業は皆無に近い状況で、民間の復活需要がEU企業の金城湯池になっているのは残念です。日本企業、特に尖兵たる商社の復帰を期待してやみません。

(注) 阪僑：海外へ出ている商売上手の大阪人のことを現実的で商才がある華僑に模して「阪僑」という



アレppo城前にて

ウルグアイ事情

JICAシニア海外ボランティア
ウルグアイ中小企業経営管理

ふじさわ ひろたけ
藤澤 裕武 (元ニチメン)

現在、私はモンテビデオ市にあるウルグアイ工業会議所経営管理センターにJICAシニア海外ボランティア(指導科目：中小企業経営管理)として派遣されています。

「ウルグアイラウンド」という言葉を知っていても国名に起因するのか、またその国がどこにあるのかわからない日本人も多く、あまり馴染みのない国ですが、1930年のサッカーワールドカップ第1回大会はこの国



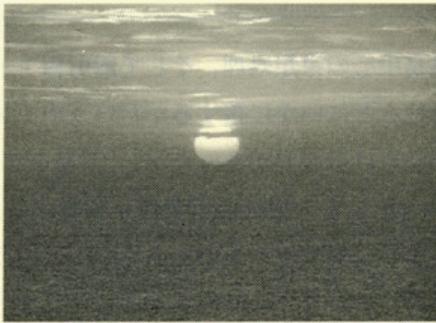
で開かれその時の優勝国だったり、また我々世代には懐かしい英国映画の「ドイツ戦艦グラフシュペーの最後」の舞台となったのもこの地です。この国は20世紀後半まで大変豊かだったこともあり、往時の名残はモンテビデオ市内の贅を尽くした数多くの建造物などでも十分想像ができます。

正式国名はウルグアイ東方共和国(西語でLa República Oriental del Uruguay)、首都はモンテビデオ市、国土面積は日本のほぼ半分で人口約340万、人種はスペイン、イタリアの移民とその子孫が大半で原住民とその子孫は皆無に近く、スペイン語を公用語とし、南欧(ラテン系)を中心とした白人の国という感じですが(因みに日系人を含めた在留邦人は400名程度です)。

独立は1825年、建国以来立憲共和制を敷き一時期の



職場の仲間(筆者後列右端)



川幅120kmのラプラタ河に落ちる夕日

軍政下を除いては、中南米でも代表的な政治体制の安定の国です。国民性は一般的に鷹揚な性格と礼儀正しく親切、社交的であり、ヨーロッパの様々な国の伝統文化が混在しており異文化に対する受け入れも寛容と言えます。教育水準は中南米の中でもトップレベルで識字率は98%に上ります。この国がかつては先進国の一角をなしていたことは間違いないはずです。

しかし、近年の経済の停滞が大きな問題となっており、2004年のGDPは全体で132億ドル、1人当たり4,078ドル、外貨準備21億ドルに対し公的対外債務は110億ドルに達しています。輸出入合わせた総貿易額は57億ドルで若干の入超、主要輸出品は肉類、米、皮革品および羊毛などの一次産品、輸入は機械、輸送機械、化学製品です。

貿易相手国の上位は隣国アルゼンチン、ブラジルおよび米国で占められ1999年以降のブラジル、アルゼンチンの経済危機の余波を受け、2002年には過去最悪の状況に陥りました。20世紀初めから第二次大戦後のある時期までの世界の食料庫としての位置付けを現在もそのまま引き継いでいる産業構造から、外貨の稼ぎを

一次産品に依存しています。

今のこの国の最大の課題は、最貧困者の撲滅、失業率の改善、若者と優秀な人材の海外流失防止などですが、その意味でも国内の経済環境の早期改善が求められています。他方、日本の半分の面積に横浜市規模の人口と農牧林業以外特徴のある産業を持たないこの国が独立国として運営していることは立派なことと思います。この国の経済の建て直しに今何が必要なのかを考えるにつけ、そのヒント付けの一助に私がここに派遣されているとの思いですが、一方では安定した国情、ほぼ単一民族の下、彼らの自助努力を持ってすれば容易に経済復興ができる環境にあると思います。

同じような産業構造のアルゼンチンとブラジルの両大国に扶まれ、諸外国にこの国の存在感を示すにはサービス面の改善による競争力強化が必要でまた最善の道であると思います。米国の大手投資会社のこの国の調査レポートでも国政の安定、高教育水準、英語およびポルトガル語を理解し、比較的安い人件費を根拠に挙げ高付加価値商品の製造業とサービス業を中心とする第三次産業の投資呼び込みを提唱しています。私の任期は残り半年余りですが、ここの経営者達にそのような考え方を持つようアドバイスしています。

終わりに、私の職場は貿易、投資関係の仕事を目指す学生、若者との接点が多いこともあり、日本の総合商社の機能と活動についての解説を頻繁に求められます。私の38年間の商社生活で経験したいわば「生きた材料」を彼らに紹介できる機会をうれしく思い、積極的にWORKSHOPを開くなどこの国の将来を担う若者との接触を大事にしています。

事務局便り

日米社会保障協定に関する説明会を開催

国際社会貢献センター（ABIC）の活動の一環として、去る9月26日日本貿易会会議室において、本年10月1日より発効した「日米社会保障協定」に関する説明会を開催いたしました。

首都圏在住の米国駐在経験ABIC会員約90名が参加し、社会保険庁から2名の講師による説明会が約2時間行なわれ、多くの出席者から年金請求に関する活発な質問が出され、盛会でした。



岐阜県海外ビジネス人材育成 塾研修会

あら い きんぞう
新居 欣造 (元丸紅)

この9月、岐阜県産業経済振興センターが主催する「海外ビジネス人材育成塾研修会」に講師として派遣された。同センターは貿易取引が比較的少ない岐阜県下の企業を対象に上記研修会の活動を活性化させており、その成果が出てきて、毎年講座数を増やし、広がり続けている。

本年度は「船積業務を中心とする貿易実務」の15時間コース（5時間を3日間）を、9月、12月、来年3月と3回にわたり計画しており、その講師として、まずは9月に、野田候補と佐藤候補の対決する衆議院議員選挙で沸き返る前後の岐阜に赴いた。

20名余の受講生は中小企業の経営陣から貿易業務担当者まで多彩であり、通関士試験を受けようとする若者から、貿易の基礎を知りたいという営業のトップまでであり、話の難易度・焦点の決めづらい部分もあったが、男女ほぼ同数の受講生はみな熱心であり、暑さがまだ厳しい午後の5時間という眠い時間帯にもかかわらず意欲的に受講してくれた。

船積業務中心の書類処理、そして取引相手・通関業者や船会社などにいかに接するかというポイントに多くの時間をかける必要があったが、「貿易を志すもの」のモットーとして、契約の重要性を強調することや、貿易の仕事がいかにロマンのあるものかという話はぜひ強調したく、かなりの時間を割くことになった。

15時間は長いようで短く、もっと焦点を絞る必要があるのではというのが第1回を終えた実感である。そして、受講生が個別に種々の質問を休み時間や講義後にぶつけてきたり、終講後に自宅宛てにメールで質問や感想を送ってくれたりすると、少しでもこれらの人たちの助けになればと再認識している。

受講生が特に熱心に聴いているのは、今まで大学生相手に話してきた場合と同じく、話し手自身の経験談、それも「失敗談」から学んだ話や、最近の実契約から取り入れた種々の業務処理の話（このためには後輩の現役の皆さんのご協力を得ているが）にあるようであった。

12月、来年3月に予定されている、第2回、第3回の講義では、受講生の求めるものをその都度つかみつつ、本筋である「船積業務を中心とした貿易基礎」が重要でありかつ面白いものであると認識される話を作り上げていきたいと考えている。



コーディネーターの転勤と その一日

中小企業支援グループ・コーディネーター

さとう とおる
佐藤 徹 (元 伊藤忠商事)

某月某日ABICの野津事務局長から中小企業支援担当の高廣コーディネーターが超多忙なので手伝ってくれないか、という話があった。我々コーディネーターは結構横の連絡があって担当外のプロジェクトでもどういふことが行われているのかは凡そ分かっている(つもりでいる)。留学生支援プロジェクトを担当して4年近くになり、いささかマンネリの感があったのとまだ若干のチャレンジ精神があったことで簡単に引き受けてしまった。

しかし実際は右も左も分からず手探り状態が続き、やっと半年ほど経った今頃全体像が掴めてきた。ご承知の通りABICの活動分野は広範囲なものであるが、我々担当の支援活動は主に地方自治体、その関連組織、一般企業、NPO法人等からの求人依頼にABIC会員の適任者を推薦し、会員の皆様に極力希望に沿った活躍の場を提供することである。

短い期間の経験で感じたことは、我々は人を相手に仕事を進めるわけだが、求人側にいろいろな方がいる

のと同じ様に会員の側にもいろいろなタイプの方が居られて興味が尽きない。また昔の現役時代との大きな変化は、通信手段が今やメールが主で電話が従となっていることだ。特に海外に駐在の会員との交信は利便性とコストの面でメールが有り難い。

仕事を離れて面白いのは、他のコーディネーター達との談論風発の一時である。国の将来を憂い、国防を忘れた国民とそれを助長する新聞を嘆き、教育の無方針に怒り、しばし時を忘れて咆哮するうちに気分も落ち着いてくる。時には場所を変えて終業後のそば屋での飲み物付き討論会となる。

今から思えばサラリーマン時代の居酒屋での話は殆どがバカな上役の悪口か、意地悪な取引先への愚痴とか、若い時には異性の話が主なものだったが、今や話のレベルは格段に向上し、小泉郵政民営化からイラク紛争の行く末まで気宇壮大だ。勿論ABICの将来についても語り合うという内容の濃い話が続く。そして喋り疲れて帰途につくというのが一つのパターンである。

現役を退いて後の生活は各人がそれぞれ独自の生き方を持っておられるが、我々コーディネーターの生活に占めるABICの影響度は多大なものがあり、日々少しでも会員や関係者の皆様のお役に立てることが出来ればこれ幸いと今日もABICのPCに向かうところである。

事務局便り

「高齢者雇用フェスタ2005」に出展

ABICでは、10月5日(水)、東京ドームシティ・プリズムホールにて開催された「高齢者雇用フェスタ2005」に参加し、ABIC専用ブースにおいて来場者にABICの活動をPRいたしました。同フェスタは、独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構等の主催、厚生労働省、NHKの後援により2003年から行われているもので、ABICは同機構からの出展要請により、第1回目から参加しています。

同フェスタは、高年齢者雇用促進月間(10月)の中心イベントの一つとして実施されたもので、当日は、関連企業・団体の展示、相談、催し物等による事業主および高齢者個人に役立つ情報提供、高年齢者雇用優良企業の表彰、シンポジウム、セミナー等が行われました。



第8回大学対抗ディベート大会 のChairperson体験記

おかだ けいじろう
岡田 恵二郎 (元 ニチメン)



2005年10月9日(日)代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて日本英語交流連盟(ESUJ)主催の第8回大学対抗ディベート大会の予選大会が行われ、私はChairperson(以下Cp)17人のメンバーの1人として参加しました。ABIC会員は私を含め6名が参加しました。

本年度の参加校は、北は秋田大学、南は北九州市立大学まで合計27校、32チーム(2チーム参加の大学もあり)でした。当日の予選大会は午前10時から午後6時近くまで、昼食の一時間を挟んで4ラウンド行われました。

各Cpはそれぞれの討議室で4ラウンドのディベートの進行役を務めるわけです。論題(Motion)は討議開始の20分前に各ディベーターおよび関係者に知らされます。ディベートは論題に対する賛成派(Proposition)と反対派(Opposition)それぞれ2人、それに3人のJudgeと1人のタイムキーパーおよびCpで構成されます。

論題が与えられて20分経過するといよいよ本番です。まず、First Proposition Speakerがその論題の正当性を述べます。続いてFirst Opposition Speakerが、次いでSecond Proposition Speaker、Second Opposition Speakerと続き、それぞれ持ち時間は7分です。最後にOpposition Summary Speaker、次いでProposition Summary speakerが持ち時間4分で自分の立場の正当

性を締め括ります。最終弁論(Summary Speech)以外のスピーチ(立論)中、各ディベーターは“Point of Information”(POI)、または“Point of Order”(POO)と唱えることができます。

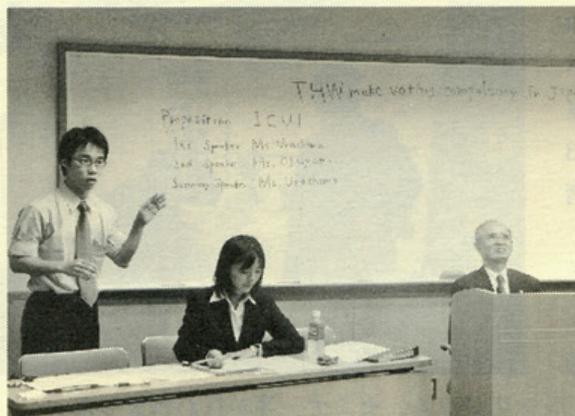
POIとは、相手の矛盾点を突いての質問を要求することですが、スピーチ中のディベーターはこれを拒絶することができる。POOとは、相手がルール違反をしているとJudgeに裁断を訴えるもので、スピーカーの弁論を妨害する合法的なテクニックです。POOはPOIと異なりタイムキーパーはPOOと聞こえたら、すぐに時計を止めてスピーチが再開されるまで待たねばなりません。特にPOIの場合は、スピーカーはこれを断ることも可能ですが、即興でこれに対処しなければならず、スピーカーの真の実力が試されるどころです。

さて、肝心のCpの役割ですが、まずディベートの開始を告げ(英国議会調に“I call this House to order.”と宣告する)、次いで3人の審判の紹介、内誰が主審かも紹介、極簡単に自己紹介をし、次いで論題を読み上げます。いよいよ賛成側のスピーカー、次いで反対側と次々と立論してゆき、最後にそれぞれの立場で最終弁論を行なう次第ですが、その間それぞれのスピーカーの持ち時間を注意し、持ち時間を30秒以上超過すると、直ちに“Stop your speech. Your time is up.”と有無を言わず終わらせます。

私が担当した4組の参加校8校、16人の学生諸君はおしなべて英語力もしっかりしておりかなり訓練されているように感じました。論題が与えられてからわずか20分で論題を解釈し、支持または反対の立場を論理的に聴衆に訴えなければならぬのですから、中々大変なことです。特に自分たちがその論題に賛成と思っても反対側のディベーターを命じられることもある訳ですから、ますます大変です。

私は都合17年間仕事の関係でアメリカに滞在しましたが、専ら売り込みと代金回収に明け暮れたので、こうした系統だった立派な立論の渦中に入る機会もなく、今回は生まれて初めての貴重な経験をさせていただきました。

なお、10月9日の予選では32チームのうちベスト8が翌日の最終大会に残り、最後に慶應義塾大学と北九州市立大学-1が残り、最終的に慶應大が優勝しましたが、前日の予選ラウンドで私は北九州市大-1のディベートに立ち会い2人の女子学生を陰ながら応援していたので、やはり最後まで残ったのかと感慨を新たにしました。



なお、参考までに予選ラウンドおよび決勝ラウンドの論題を下記します。

- Round 1. [This House would make voting compulsory in Japan.]
 - Round 2. [This House would welcome more foreign sumo wrestlers.]
 - Round 3. [This House believes that the space exploration is a waste of money.]
 - Round 4. [This House believes that permanent membership of the United Nations Security Council should be abolished.]
- 準々決勝 : This House would support the Prime minister's visit to the Yasukuni shrine.
- 準決勝 : This House would abolish registration of World Heritage Sites.
- 決勝 : This House would introduce English debate in public schools.

名古屋外国語大学 「国際経営特論」好評スタート

今やABICの講座は大学関係者の中では知る人ぞ知る存在になったが、多岐にわたる主題の中で貿易論、海外企業経営論、地域経済論の3つはどこの大学でも人気が高い。国際経験豊かな企業OBの中でもこのテーマならこの人という指折りの練達者がアドホックで繰り出す実戦のストーリーが学生を魅了するからだろう。

今年は名古屋外国語大学国際経営学部で新しい試みがスタートした。『関西系総合商社』の著書で有名な辻節雄教授のご指導による「国際経営特論Ⅰ」「国際

経営特論Ⅱ」で、前期、後期には分かれるが、本質的には通年の講座である。

この講座はグローバルビジネスの最前線に立って、市場の開拓や現地の人々との交流、製品開発やマーケティングに努めてきた国際ビジネスマン諸氏（ABIC会員）が、実際に滞在し、生活し、ビジネスを実現した世界の地域社会の特徴と、それぞれの事業分野で関わりあったプロジェクトについて、オムニバス方式で学生諸君に語りかけ、将来国際舞台で活動したいという若人にエールを送ろうというものだ。

前期は、辻教授がご自身の学生に対する思いをこめながら講義進行を見守ってくださる中、ABICから派遣された5人の講師が米国とオセアニアを中心に1人2時限ずつの講義を行った。

日本製建材を米国で販売する中小企業の経営者としての苦心談、とりわけ慣習や文化の違いへの適応、成功の条件としての粘り強さには多くの学生が尊敬の眼とともに共感を寄せたし、米国の婦人衣料ビジネスの話では、米国のファッションの移り変わりや欧州ファッションとの比較や流通メカニズムの説明がたくさんの写真入りのパワーポイントで紹介され、特に女子学生から感激の声が上がっていた。

また、日本車を中南米に輸出普及させたマーケティング・ストーリーではプエルトリコやコロンビアという普段なじみのない国の風物や生活、女性の社会進出は日本よりも進んでいるという話に強い印象を受けた学生も少なくなかったようだ。

そしてオーストラリアについては、大学としての提携先もあるので、実際に訪問経験のある学生も少なくなかったはずだが、ビジネスや経済との関連になると初めて天然資源の重要な供給先であることを知ったこと、ブラジルについても日本との歴史的な関係、しかも農業分野についての日本の貢献と今後の資源供給国としての存在感についての納得など、学生からの熱心な感想文には講師一同も胸を熱くしていた。

後期は10月からヨーロッパとアジアを中心に同様な形で講義が展開されるが、今から既に期待感が高まっている。

(大学等講座グループ・コーディネーター
ますだ まさやす
増田 政靖)



関西学院大学／ABIC 産学共同プロジェクト

国際理解教育事業 「高校生向けアメリカ理解教育普及」

テキスト出版のためアメリカへ9名派遣

ABICは、関西学院大学と共同で国際理解教育事業「高校生向けアメリカ理解教育の普及」プロジェクトに取り組んでいます。来年3月にテキストを出版、4月から高校での出前授業を行う予定です。感受性の豊かな高校生時代に米国に対する関心を啓発することを目指しています。

このテキスト出版のため本年7月から10月にかけて執筆者9名（大学教授2名、高校の教諭3名、ABIC 4名）を米国に派遣しました。

執筆者の方々には、それぞれのテーマについて『アメリカ新発見』をキーワードに現地にて調査していただきました。

執筆者およびテーマは、以下の通りです（※は、アメリカ出張者）。



University School of NashvilleのHigh Schoolの生徒が当日学校を案内してくれた（10月18日）。
宝塚西高校の野村教諭（左）、ABIC会員野村哲三氏（右）

本プロジェクトは、国際交流基金日米センターおよび米日財団の助成事業に採用され、また関西学院大学では学長指定プロジェクトとして、各々資金援助を受けています。

プロジェクトの目的（日米センターへの申請書より）

「日本の経済、企業、文化、社会、国民など全てがグローバル化する中で、アメリカとの関係を常に洞察して行く必要がある。果たして、グローバル化とはアメリカニゼーションと一致しているのか。日本はアメリカをスタンダードにすることが必要なのかを問うことが、これからの日本を背負う若者にも必要だと考える。

関西学院大学	※ 藤沢 武史 教授 (プロジェクト代表、テキスト編者)	ディズニーランドの経営秘密 企業家精神の秘密
兵庫大学	※ 石原 恵子 助教授	競争社会アメリカを支えるもの
宝塚西高校	鈴木 譲二 教諭 共著 ※ 野村 和弘 教諭 共著	多民族国家の形
啓明学院高等学校	※ 長久 善樹 教諭	アメリカ料理で味わうアメリカ
啓明学院高等学校	※ 藤川 勝洋 教諭	アメリカ人のボランティア意識
関西学院中学部	岡本 秀一 教諭	アメリカの教育のプラスとマイナス
ABIC会員	※ 野村 哲三 (元三菱商事)	Human Nature Has Two Sides; Many Sides.
ABIC会員	高田 忍 (元住友電工)	アメリカ社会の公平と公正
ABIC会員	※ 藤田 卓 (元丸紅)	メジャーリーグを通して見るアメリカ
ABIC会員	※ 小林 庄右エ門 (元日商岩井)	アメリカンドリーム 二人の実業家
ABIC会員	川本 恒彦 (元三菱商事)	プロムを通してみるアメリカの高校生
ABIC会員 (米国在住)	宍倉 勝 (元伊藤忠商事)	アメリカ人の愛国心
ABIC会員 (英国在住)	※ 立脇 恵子 (ロンドン大学大学院 修士課程在学中)	アメリカン・コンプレックス イギリスのアメリカに対する思い アメリカのイギリスに対する見方



イチローのいるシアトル・セーフコフィールド球場にて
ABIC会員藤田卓氏

そういった判断を下すタイミングが大学生になった
時では遅すぎる。感受性の強い高校生の時にかかる問

題意識に目覚め、アメリカをもっとよく知る必要がある。
この観点から高校でもアメリカ理解教育を普及させ
ていくことが望まれる。このために欠かせないのが
好書といえるテキストを普及させることだ。

まず、高校生にも理解しやすいテキストを作成する
ことが肝心である。アメリカに関心を持たせると同時
に、アメリカの最新事情をよく知らせるためのテキス
トの発刊を目的として、更にはそのテキストを使いな
がら高校で授業を担当するなどして、アメリカ理解教
育を普及するための活動を展開したい。アメリカ理解
教育に強い関心を有する14名を選考し、2005年度中に
アメリカでの実態調査を踏まえて、2006年3月にはテ
キスト出版を予定したいと考えている。」

(高校生向けアメリカ理解教育普及プロジェクト

ABIC責任者 宇佐見 和彦

留学生支援

東京国際交流館
「フェスティバル'05」に参加

今年も恒例の秋の文化祭が「交流館フェスティバル
'05…お台場で世界をつかめ…」(TIEC Festival '05
"Meet the World in Odaiba")と銘うって10月23日(日)
秋天の好日に恵まれて開催されました。

ABICは、日本科学未来館、産業総合研究所、レイ
ンボーロータリークラブと共に協力者として参加、当館
の開館以来、その運営に協力している茶道、華道、書
道、空手各教室が日頃の成果を披露しました。

茶道は秋晴れの陽光の下、野点で150客を超えるお
手前を披露、赤い毛氈に多数の訪問者が順番待ちをす
る人気スポットとなっていました。

活け花の体験会は今年も盛況で、70人を超える来訪
者がインストラクターのほか留学生の指導を受けなが
ら秋の花と取り組んで楽しんでいました。

書道教室は日頃の研鑽の成果を21点、正面玄関の
入口に展示して全入場者の注目を浴びていました。

国際会議場のステージパフォーマンスは午後4時、
和太鼓の連打を合図に白い空手道着を着けた空手教室
学生による演舞を皮切りに開幕し、4ヵ国の学生による
呼吸を合わせての熱演に盛んな拍手が起こってしま
した。

このほか各国留学生による屋台が並んでお国自慢の
料理を販売したり、フリーマーケットにも多数出店し
て終日賑わっていました。

ABICからは事務局長をはじめ15名が参加し、留学生
およびその家族と協働しつつ交流を深めました。主催
者の集計では来場者は1,600人を超えた模様で、一日
の開催としては予想を超える盛況でした。

(留学生支援グループ・コーディネーター 山田 雅司)



会員入会のお願い

国際社会貢献センターの運営費は、会員の皆様から頂く会費で賄われております。今後ともさらなる会員の皆様のご援助、ご協力をお願い申し上げます。

種類	内容	年会費	
正会員	センターの活動を推進する個人、法人及び団体。 (理事会の承認を得て入会)	法人及び団体 一口	50,000円
		個人 一口	10,000円
賛助会員	センターの趣旨に賛同し、会費を納める個人、法人及び団体。	法人及び団体 一口	10,000円
		個人 一口	5,000円
活動会員	センターに登録し、センターの事業に参加しようとする個人。	不要	—

正会員

団体・法人 (17社)				(社名五十音順)
<10口>	(社) 日本貿易会	伊藤忠商事(株)	住友商事(株)	双日(株)
	丸紅(株)	三井物産(株)	三菱商事(株)	
<6口>	(株) トーメン	豊田通商(株)		
<4口>	(株) 日立ハイテクノロジーズ			
<2口>	稲畑産業(株)	長瀬産業(株)	阪和興業(株)	
<1口>	協同木材貿易(株)	興和(株)	JFE商事ホールディングス(株)	蝶理(株)
個人 (4名)				(敬称略・氏名五十音順)
	池上久雄	小島順彦	寺島實郎	宮原賢次

賛助会員

個人 (301名)

下記は2005年6月以降、ご登録お申し込みいただいた5名の方です。

(敬称略・氏名五十音順)

<2口>	岩本洋之	友國洋		
<1口>	戸川順治	仲田慎太郎	宮川正裕	

活動会員 1,528名

(2005年10月31日現在)

賛助会員・活動会員ご入会は、当センターホームページ「賛助会員・活動会員入会案内」(http://www.jftc.or.jp/abic_register/index.html)の申込書にご記入のうえ事務局宛郵送いただきますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先：Tel. 03-3435-5973 Fax. 03-3435-5979 扇、道家

e-mailアドレス・住所等の変更届けはお忘れなく！

e-mailアドレス・住所などの変更がありましたらご連絡ください。
転居先不明で返送される例が増えています。

e-mail : mail@abic.or.jp FAX. 03-3435-5979